



学校図書 の 充実「人づくり」にお金を使わない熊本市

政令市最下位クラスの学校図書購入費・・・政令市平均の5分の1以下

桁違いに少ない

学校図書購入費

熊本市の学校図書購入費は、政令市20市の中で低い方から2番目です。政令市の平均額が約1億5,600万円、熊本市はわずか約2,600万円、政令市平均の「5分の1」にも足りません。桁違いに少ない金額です。

人口や児童生徒数を考慮した比較ではありませんが、同規模の政令市である新潟市・静岡市・浜松市・岡山市などと比べても「3分の1」程度しかありません。

学校図書館法では、学校図書を学校教育に欠くことのできない基礎的な設備として、学校教育の充実を目的にしています。よって、その充実が必要です。少ない購入費は、法の趣旨に反するものです。

学校図書購入費の政令市比較

札幌市	170,222
仙台市	122,108
さいたま市	105,686
千葉市	78,610
横浜市	368,797
川崎市	183,811
新潟市	62,281
相模原市	23,362
静岡市	67,300
浜松市	87,625
名古屋市	462,480
京都市	141,192
大阪市	402,467
堺市	132,393
神戸市	186,000
岡山市	70,000
広島市	75,167
北九州市	201,876
福岡市	157,340
熊本市	26,224
(平均)	156,247

(千円)

少ない図書購入予算を年々減らしている熊本市

政令市の中でもとりわけ少ない図書購入予算を、熊本市は年々減らしています。

学校図書の充実は子どもの成長にとって、「豊かさ」のバロメーターです。

心豊かな子どもの成長のため、貧しい学校図書購入予算は拡充すべきです。教育予算を、大型開発ハコモノの犠牲にしてはいけません。

熊本市の図書購入予算の年次推移

(千円)

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
30,608	27,700	26,231	26,224	26,224

【控室から】 政治家のおへいじ

上野 みえこ

埼玉・群馬を会場に開催された第67回日本母親大会は、全国にオンライン配信され、熊本会場に参加することができました。視聴したのは全体会、法政大学前総長・田中優子さんの記念講演はじめ、八木節などご当地文化プログラムや、全国のさまざまな運動報告など、多彩な内容を居ながらに見聞きできました。

田中優子さんの講演では「自由を生き抜く実践知」と題し、憲法・ジェンダー平等などについてお話されました。大学の総長退任の時にお話された「女性ホームレスの死」では、女性の社会進出が進んできた今でも、取り残されている女性たちとの分断が存在していることについて問題提起されました。心に残ったのは、「政治家のすることは、幸せな人を増やすこと」でした。当たり前のように、一番大切なことです。

中心市街地に熊本城ホールをつくっても、地元の業者が廃業・倒産に追い込まれ、街中に空店舗が増えては、幸せを感じることはできません。コロナでも、物価高でも、すべての市民が安心して暮らしていける、日常に幸せを感じる熊本市であってほしいと思います。

近づく市長選は、ハコモノ行政から、暮らし・福祉優先へ、市政を変える選択の時です。



上野みえこ
(中央区)



なすまどか
(東区)

日本共産党

熊本市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
発行: 日本共産党熊本市議団HP: 共産党 熊本市議団

NO. 1297

2022年10月23日号

電話 328-2656

FAX 359-5047



検索



市民感覚を欠いた庁舎整備有識者会議の議論

日本共産党熊本市議会だより 2022年10月23日号 (No.1297)

熊本城の眺望をさえぎる「高層ビル」計画でいいのでしょうか？

有識者会議委員「資金ゼロで建替えている例もある」

民間活力を使った庁舎は、いずれも「超高層ビル」

「庁舎整備有識者会議」では「東京では、民間を活用して資金ゼロで建替えている例もある」との意見がありました。

費用負担軽減の具体的事例としては、豊島区や渋谷区の庁舎建設がありますが、いずれも高層マンション建設です。

高さ規制のある熊本城の目の前に高層ビル建設の庁舎整備計画でいいのでしょうか。

豊島区役所は、容積率 800%・地上 48 階・高さ 190mの建物（市街地再開発）。

渋谷区役所は、地上 39 階・高さ 143m の別建マンション棟を建設。（定期借地方式）



（豊島区役所）

市民の声が反映されない「有識者会議」は問題

市民が長年、大切に守ってきた熊本城の景観・眺望を台無しにするような庁舎整備の議論が行われるのは問題です。国宝で世界文化遺産の姫路城は、お城周辺に厳しい高さ制限をして、新幹線からもお城が見えるような眺望を確保しています。

日本 3 名城と言われる熊本城も倣うべきです。

委員の選任も含め、市民感覚を欠いた有識者会議は、市民の声を反映させる仕組みをつくり、市民の目線での議論を行っていくべきです。

建替の是非、「耐震性能評価」の検証に疑問！

「安井設計による耐震性能評価」の検証 実施した安井設計への委託では、公正な検証にならない

2018年3月に報告された安井設計による耐震性能評価の検証として、熊本市は4人の有識者（熊大・東京理科大）の意見聴取を行いました。しかし、この意見聴取は、「本庁舎整備計画検証支援業務」として安井設計へ委託されたものでした。第3者の見解聴取が耐震性能評価の実施事業者への委託では、客観的なものとはなりません。

また、2019年8月の市議会・庁舎整備特別委員会で、東京理科大学の高橋治参考人が述べた意見もまた、熊本市が「本庁舎整備計画検証支援業務委託」（その2）として安井設計に委託したものでした。建て替えが必要という高橋参考人の意見は、第3者の意見とは言えません。

いずれも、客観的と言えない検証であることは問題です。

耐震性能の検証は、公開で、客観的・科学的に行うべき

議会推薦の齋藤幸雄参考人は、市や安井設計が提供した資料で自ら構造上の計算を行い、見解を示されました。要するに、専門家の検証は耐震評価の実施業者に委託する必要はなく、実施業者への委託により第

3者の評価ではなくなります。

耐震性能評価の問題は、市庁舎建替の是非に関わる重要な問題です。客観的・科学的な検証なくして、先へ進むべきではありません。公開された場での検証が必要です。